

場所 京都府木津川市

面積 148ha

活動目的 環境省RL準絶滅危惧のオオタカをシンボルとして、多様な生物の生息環境保全を目的としています。



サイト概要 申請区域では、生物多様性の保全を進めていく地区として位置付けし平成26年に生物多様性木津川市地域連携保全活動計画を策定し、里地里山保全活動を実施してきました。申請区域内では、オオタカの飛来やヤマトサンショウウオの生息等が確認され、その他多種多様な動植物が生息しています。申請区域内の維持管理については、年2、3回の回遊路整備をはじめ、活動エリアごとに整備を実施しています。将来のビジョンとしては、令和6年3月に策定した「生物多様性木津川市第2次木津川市地域連携保全活動計画」で定めた将来像として、オオタカが再び営巣・繁殖し、継続的に生きられる森となること等を定めています。

**土地利用の
変遷**

申請区域は、学研木津北地区として、元々住宅地開発を行う予定地でありましたが、社会経済状況の変化等を踏まえた国土交通省通知によりニュータウン事業の中止が決定されました。その後、平成24年に木津川市学研木津北・東地区土地利用計画を策定し、同地区を生物多様性の保全を進めていく地区として位置付けるとともに、平成26年に「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」を策定し、里地里山保全活動を実施してきました。

**サイト周辺の
環境**

申請区域は、北側に京都府道や一級河川木津川に面しており、東側は森林が広がっています。西側は集落や耕作地が隣接し、南側はニュータウンに接しています。申請区域は都市と自然が共生しているエリアです。

**アピール
ポイント**

申請区域では、木津川市地域連携保全活動応援団に属する9つの活動団体が各々の信条のもと活動していますが、共通目的として生物多様性の保全や自然の恵みを享受・継承することで、こども達の健全な成長を支える場としても活用されています。

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトの北西部の北谷エリアでは、代掻きから田植えまでを１年間を通し体験できる米作り教室や野菜作りを実施しています。また竹林整備を行いつつ、春にはタケノコを育成し、参加者にタケノコ堀り体験を実施しています。また竹材活用として、竹のおもちゃ作りや竹柵作りのイベント等を開催しています。本サイトの南東部の南谷エリアでは、子育て・食農教育、自然遊びのイベント等を開催しています。

【主な植生】

調査で確認できた植物種は、木本97種、草本144種、シダ類4種、キノコ類10種をはじめとした合計261種でした。生息を確認した植物種のうち、京都府レッドリスト2022に掲載された植物種は6種でした。

【確認された主な動植物など】

植物種は261種、哺乳類10種、鳥類36種、昆虫127種、両生類1種を確認しました。

鳥類：コルリ（*Luscinia cyane*）、キビタキ（*Ficedula narcissina*）、アオジ（*Emberiza spodocephala*）

哺乳類：ニホンザル（*Macaca fuscata*）、ホンド Kitsune（*Vulpes vulpes japonica*）

両生類：ヤマトサンショウウオ（*Hynobius vandenburghi*）



写真の説明：北谷エリアでの田植えの様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

ヤマトサンショウウオは、現在申請区域の複数箇所で見えや卵塊・幼生が確認されています。過去に盗掘された経験を踏まえ、場所は非公表にしています。

【確認された希少種】

本サイト内では、環境省レッドリストまたは京都府レッドリスト等に掲載された希少種として、哺乳類2種、爬虫類6種、両生類7種（ヤマトサンショウウオ含む）、鳥類14種が令和元年度環境調査で判明しています。また令和6年度のサイト内で活動している活動団体による環境調査により、環境省レッドリストまたは京都府レッドリスト等に掲載された希少種として植物種6種、両生類1種が確認されています。

【種名】ヤマトサンショウウオ	【学名】 <i>Hynobius vandenburghi</i>
【レッドリストのランク】環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類、京都府RDB：絶滅寸前種	
【ライフステージ】卵塊、幼生	【確認された年月】令和6年4月
【調査手法】定点観測	



写真の説明：ヤマトサンショウウオの幼生



写真の説明：ヤマトサンショウウオの成体

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
目的：人間も含めて多様な生物が生活しやすい良好な環境である里地里山を保全し、多様な生物と共に暮らす楽しさを次世代に伝えるため。 活動計画内容： ○ 空間のインフラづくり（全体の整備・管理計画） 車両でサイト（かせやまの森）にアプローチするために、駐車場の増設の検討や、サイトを適正に管理及び放置竹林の整備を整えるための管理動線として、軽トラック程度の車両が通行可能な整備を検討します。また、活動団体等が整備したルートを通路整備により適正に管理します。また、サイト内の生物調査やモニタリング調査を実施し、種リストの作成等といった生物の情報を蓄積する体制を構築します。 ○ 放置竹林の整備・保全 里山の荒廃の防止やオオタカの営巣環境の保全、ヤマトサンショウウオの産卵環境である湿地環境保全のため、竹林の適切な整備・保全に取り組みます。 ○ オオタカやヤマトサンショウウオと共存する空間づくり ・ オオタカと共存する空間づくり オオタカがサイト内で再び見られるようにするために、生息環境の改善や餌場の創出について整備を検討します。 ・ ヤマトサンショウウオと共存する空間づくり 湿地環境の復活と維持といった継続的な整備を実施しつつ、希少種であることから、盗掘対策を含めた生物の採集ルールの構築を整備検討します。 実施時期：令和6年度から令和15年度までの10年間 頻度：適宜随時	【モニタリング対象】 1. 鳥類調査、2. 哺乳類調査、3. 植物調査、4. ヤマトサンショウウオ調査 【モニタリング場所】 各調査で設定したルート、地点で実施 【モニタリング手法】 1. 鳥類調査…ラインセンサス調査及び定点観察調査、2. 哺乳類調査…赤外線センサーカメラ、3. 植物調査…様々なコースを踏破し目視観察、4. ヤマトサンショウウオ調査…定点観察調査 【モニタリングの実施時期及び頻度】 1. 鳥類調査…月1回、2. 哺乳類調査…10月～翌年5月まで、3. 植物調査…年5回（4月、6月、9月、10月、翌年4月）、4. ヤマトサンショウウオ調査…1月～6月まで 【モニタリング実施体制】 1. 鳥類調査、2. 哺乳類調査、3. 植物調査…かせやまの森創造社環境班、4. ヤマトサンショウウオ調査…鹿背山倶楽部 いずれの団体も、活動責任者である「木津川市地域連携保全活動応援団」に所属されています。